

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷(1Fだけ)		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三段畑8-1		
自己評価作成日	平成23年1月	評価結果市町村受理日	平成23年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由な雰囲気的大事にしながらも、集団の力を活用し、レクリエーション等にも力を入れ、生活の活性化につなげる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2673000127&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年3月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊厳を大切に」「画一性、押し付けの排除」「地域社会との融合を図る」の理念のもと、お一人おひとりの尊厳が何よりも大切にされることに尽くしている。「やりたい」気持ちを大切に、興味のあることを引き出す取り組みとして、習字や絵、その他、地域の先生がボランティアとして関わってくださり、利用者の意欲や個性の輝きを引き出して下さっている。また幼稚園児の訪問による交流、キャロリングや琴等音楽による楽しく癒される時間が提供されながら暮らしが支えられている。気軽にボランティアの方が来て下さり、利用者と関わっていただいたり、洗濯等を手伝っていただいたりしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・散歩時にはいつもご近所の方に、「おはようございます」と笑顔で交換している。コスモス畑での花摘みを提供、お隣の畑で取れた野菜を皆さんにとくかさったり等日常的な付き合いができるように関わりを大切にしている。ご近所の歯科医院、整形外科医院での受診時はDRや看護師の皆さんが、利用者さんが安心して受診できるような配慮と共に温かく見守って下さっている。 ・長岡京市文化行事、ガラシャ祭り等へ積極的に参加し、楽しんでいる。またカトリック幼稚園の子どもたちと七夕祭り、勤労感謝の日等小さな子供たちとの交流は、お互いが存在を大切にする時間となっている。長岡京市の地域支援事業のひとつである「やすらぎ支援員養成講座」の受講者、地元中学生実習の受け入れも大きな地域との発展的交流につながっている。 ・年に2回、秋の交流会と夏祭りには、恒例の催し物として、食事会や出店も出し、近所の方との交流の機会になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献	・地域における研修会への職員の参加、長岡京市のやすらぎ支援講座受講者の実習を受け入れ等により、地域の有識者、体験者の方にも実体験をして頂き、認知症高齢者を支え合いを地域と共に考えさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2月に一回運営推進会議が開催され、ユニットとしての現状を報告させてもらい、その場で聞かせてもらう意見や情報を大切に活かしている。重度化に伴う、ターミナルケアを含めた今後の課題をご家族の方のお気持ち、様々な視点を頂きながら利用者への還元を大切にしている。 ・運営推進会議での検討内容がスタッフ一人ひとりのケアに十分生かされるように、議事録の閲覧または会議にて報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会の出席、また地域グループホーム連絡会に参加し、リーダーと通しての連携がある。 ・管理者よりの市町村との連携の現状をその都度分かち合ってもらっている。地域とのつながり・・・やすらぎ支援の実習等で実習生の様々な経験等分かち合ってもらったことをケアの中に取り入れる等・・・スタッフの視点の広がりサービスの質の向上に結んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないのは原則としている。骨折し、歩けない方は車椅子での移動中心の生活になるが、移動時以外の車椅子使用は必要最小限にするように努め、テーブルに着いた時は出来るだけ椅子に移乗してゆくりしてもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・スタッフは外部研修・自主研修を通して虐待防止法等、認知症ケアについて学んでいる。利用者を受け止めきれない未熟な気持ちを抱えながら、そうした気持ちを家族やスタッフがひとりで抱え込むことなく、共に分かち合い、主治医、専門医のアドバイスを頂きながら、ユニット全体として気持ちを一つにして虐待防止につなげ、入居者、スタッフが共に守られることに努めている。 利用者へのケアの気持ちが届かないことから相手に変わってもらう方法を求めることなく、自己覚知に向かう中でことばを含めた虐待防止をし続ける。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・実際に利用者本人が決定できない入院、今後の心配等の課題や問題に向き合いながら親族のご事情等も含めて、より良き解決のために権利擁護に関する日常生活自立支援事業や成年後見人制度の認識を深め、見守ることに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者が入居希望の家族との出会いの中で、家族の不安や気持ちを受け止め疑問に応じて、入所への意志を確認した後、ユニットリーダー、スタッフ同席のもと事前評価(アセスメント)等の取り組み、そしてご本人のお試し入居へと、安心して、無理なく入所して頂ける関りを大切に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所してしばらくは、生活環境、生活習慣の違いにより、ご家族に訴える気持ちの不安、不満も多く、その時こそ真摯に一つ一つ、一回一回の話をよく受け止め、運営に反映できるように努めている。慣れ親しんでいく生活の中では、日ごろの困惑をできるだけ早く吸い上げ、改善と新たな創造につなぐことを大切にしている。直接的な不満の言葉ではなくても、利用者が困っていること分かってほしい気持ちを本当に受け止め、運営側に提言、反映につなげている。 ・何よりも、ご家族との率直なコミュニケーションができるように努め、意見等に対してはできる限り迅速に応じることに努めている。すぐに解決できない課題等、ご家族に運営の考え方と対応の仕方をご理解していただきながら、安心できる解決と創造に努めている。徘徊のある利用者が玄関に鍵をかけてないということでの心配に対して、理念のご理解をいただきながら、スタッフの見守りの徹底、夕方の玄関施錠の確認等、ご家族に安心して頂けるよう努めている。 		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・会議体系として、ユニット会議の意見を吸い上げ、リーダー会議また職場運営会議、管理者会議へと代表者へ意見をボトムアップ的に上げていく仕組みがある。 ・年に2回の「職場運営会」では、スタッフと幹部との懇談会の場が設けられている。 		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が休憩できるように、休憩室等は準備されている。福利厚生として、職員にポイントが供給され、買物、旅行等に使用している。ユニット独自として時間外に、年に数回の交流会を持っている。 ・お一人おひとり、一回一回が違う出会いや出来事の連続の日々であり、職員の問題意識を何よりも大切にしている。率直な問題意識が向上心に向かい、同時に、資格習得への挑戦(ホームヘルパー2級、介護福祉士等)へと励まし、そのための勤務調整もお互いに協力している。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>職員の勤務体制の制約の中で、様々な研修の情報の提供をもらいながら、職員個人の意志や希望により研修参加している。ユニット会議での毎月の自己研修・研修の報告の分かち合い等で日常へのケアに生かすように努めている。</p>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・乙訓地域グループホーム連絡会に積極的に参加し、意見交換・情報の共有に努めている。毎年、長岡京市の主催である「やすらぎ支援員」の講座実習生で、現役同業者、経験同業者が当施設に実習生として来所という交流も大切にしている。他事業所を含めた全社的な研修を通して、他事業所の職員の方との交流や情報や智慧の交換の場もある。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者の不安な気持ち、何を求めているのか、日々の生活の出来事を通して、居室で一人になる時間等、良く傾聴する時間を持ち、信頼関係を築きながら、肯定的な関りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時に家族の疑問、不安な気持ちを聞き、受け止め、お応えできるように努力をしている。また面会来所時にも些細なことであっても聞かせてもらいながら、援助計画に反映できるように努めている。認知障害の低下はご家族にとって認めがたい状況もあり、そのご家族の気持ちを傾聴させてもらい、より良きケアを共に考えられる信頼関係を結べるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けたときは、よく傾聴させてもらい、要望や希望を踏まえ、安心につながるように努めている。何よりも今までの利用者さんの趣味等、なじみの生活が大切に継続されるような支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・人生の大先輩である一人の人間として生きてこられたその道のりに畏敬の念をもって出会うことに努めている。今までの体験や思い出等、生活の一幕の中に、特に散歩や、入浴等の時を介在に、妻として、母として、働く女性としての生き方等喜怒哀楽と共に、様々な角度から学ばせていただき、お互いが支えあい、深まりあう関係に努めている。お一人の人間が人生の途上で認知症という条件を抱えてはいても、同じ人間として共に学びあい支えあう大切な時と場である関係を深めていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・来所時等にご家族の立場、思いを聞かせて頂き、受け止め、支援されてこられた喜怒哀楽の歩みを聞かせてもらい、また当所での現状の変化への対応等、一緒に考えて頂き本人を共に支えていける信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・可能な方は以前住んでおられた地域の集まりや自宅に行ったり、年賀状等、時ある毎に友人知人にはがきを書いたりする習慣を大切にもらっている。 ・あまり外出されない方は、ご家族の力を借りながら外出の機会を増やしたり、スタッフとともにスーパーや地域の行事に出かけたりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・生活環境の違い、考え方の違い、機能の低下の違い、そうした違いに悪気なく反応されることが多く、時々トラブルとなることがあるが、正邪、善悪で判断することなく、お互いを受け止めあえるようにスタッフが介入しながら、支えあうように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・自立に向かい、2007年1月に退所された方は、近くのマンションで家族の支えも受けて、一人暮らしを始めた。年月が過ぎたが、家族との絆を深めつつ、今でも、顔を見せにきたり、スタッフとの出会いを大切にしている。また散歩時にも利用者との交流もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・お一人おひとりの一日の体調、気分、培ってきた生活習慣等違いが様々で、同時に全てを満足していただくことは難しいが、できる限り本人本位を大切に検討している。他者をお世話をしたいと食事時等手伝いをがんばる意向はあるも身体には過重負担になることもあり、本人の意向を大切に、体調への配慮見守りに尽くしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族やこれまで関わってこられた方々からの情報提供に加え、日々の出会いの中で、過去のことを聞かせてもらい、その中で好き嫌い、趣味、家族関係等これまでの暮らしを受け止め理解させていただき、ご本人を知ることとケアに向かう大切な情報となっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・朝のバイタルチェック、入浴時の身体変化のチェック等を行いながら、何よりも身体機能の低下を防止できるように工夫をしている。 ・歩行力、排尿、排便力を保てるように歩行時の歩き方、トイレ誘導による排尿を促し、また生活の中では他者のために役立ちたい気持ち、調理や後片付け手伝い、好きなことに向かう集中力の保持等総合的に把握し、日々活かに結べるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の方にも現状をお伝えしながら、ご意見もお聞きしたり、月一回のユニット会議におけるケアカンファレンスによって、スタッフの意見やアイデアを確認し、それらを援助計画に盛り込んでいくことを基本に作成している。 ・援助計画は定期的にモニタリングを行い(必要時には随時行い)、必要があれば再アセスメントを行い、計画・援助内容の見直し、次なる援助計画の作成に努めている。特別な変化(入院等)の場合は、その時点で現状に即した介護計画の作成に努めている。家族の意向、看護師や主治医の視点をもらいながら、本人本位の計画の作成に努めている。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々、一人ひとりの様子やケアをケース記録として残している。その記録を元に、アセスメント、モニタリングとして記録に残しながら次なる援助計画に向かっていく。記録と同時に日々のお一人おひとりの申し送りは職員のコミュニケーションと実践に結ぶものとなっている。 ・ひとりの利用者を対象に、センター方式を活用した記録を試行中である。上手く日々のケアに活かせるよう、スタッフ全員で励んでいるところである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・当所では、居宅支援事業所と訪問サービスがあり、ホームヘルパー、ケアマネジャーも在籍し、在宅での智慧、他施設の智慧を教えてもらったりすることができる。利用者の状況に伴い、歩行器、徘徊防止センサー等福祉器具の情報提供、導入使用に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・現時点では、習字が好きな方が、地域の習字の先生に習字を做ったり、絵の好きな方が絵を做ったり、地域の高齢者のバンドの訪問等、地域のボランティア等に協力を頂き充実した生活の支援につなげている。また、年2回の避難訓練における消防との連携は安心安全への協働となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・基本的にはご本人・ご家族の希望のかかりつけ医の受診体制が整備され、安心して受診してもらっている。心身の現状の把握と今後に向けてのケア等につなげられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・月2回訪問看護ステーションからの看護師の訪問があり、日常の健康管理や受診の判断及び医療の相談を受けている。必要があれば臨時的に看護師に訪問してもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院された利用者さんには、退院後の生活がよりスムーズになっていただけるように、お見舞いに時々行っている。基本的にはグループホーム職員は第3者扱いとなり個人情報の関係で、情報をいただけないため、ご家族と連携し、ソーシャルワーカー・看護師等と密に連絡を取り、現状を確認し退院後のケアを含めて情報の交換をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ドクターの指示とご家族の意思確認により、ターミナルケアを実施する。今年度については、1名が結果的には病院にて死亡となる。 ・ご家族の方の今後の考え等を聞かせて頂きながら、必要な方には文書でターミナル時の対応を確認している。医療の助力や支えをもって、人生の結びの時間を最後までその方の尊厳を大切にできるケアを模索している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急マニュアルを常時スタッフルームに掲げてあり、職員同士で確認している。また、他ユニットの方で緊急事態発生時の様子も朝礼等で共有してもらい応急手当、初期対応への自覚が日常的にも深められるようにしている。救命講習も受けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害マニュアルの確認と共に消防署の協力を得て避難訓練を毎年2回実施している。利用者お一人おひとりの状況に合わせて、スタッフが避難の順番等を確認している。施設管理者が、地域に協力をはたらきかけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・お一人お一人の誇りやプライバシーを大切に言葉遣いや対応を心がけている。お一人の言葉や動作の中にその方の人生の歴史が刻まれている。それらの重さを大切にしたいと願い、傾聴し、その方の理解につなげている。その方の存在の肯定を何よりも大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・何よりも利用者お一人おひとりの表現を受け止め、納得して次の行為に結べるコミュニケーションを大切にしている。例えば体調のコントロールがしっかりできない状況にありながらも、台所仕事はどうしてもしたい気持ちになる方、気持ちを何よりも大切に、体調の調整はスタッフが見守りながら行う等、一つ一つを納得しながら生活していただける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・「今日は何をしてくださるんですか。」「今日は歌を歌いたいです」「百人一首をしたい」「家に帰らにやあいかん。」「手伝わずにはおれん」お一人おひとりの思いとことば、自由に動けなくて何をしたらよいかわからないと訴える方、あまり皆と合わせるの苦手の方、気持ちと現実の隔たりがありつつも、何よりも安心できる居場所を求めておられるお一人おひとりの思いと安全を願い、日々の流れを生活の中心におき、無理なく形に結んでいけるように支援に努めている。ゲームをしている方もいれば、その場にながら新聞を読む方、また入室してTVをみたり、ごろ寝をしたりする方、安心してそれらができる環境の創造を大切に支援し、見守らせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自己決定できる方は、外出時、来客時、お稽古時等には化粧、服装の整えをしてその時と場を大切にしている。美容院等に行かれたりしている。その他の方は、月一回は美容師さんが訪問して下さり、その方に似合ったカット、顔そり等してもらっている。 ・起床時、入浴時には身だしなみ、服装等一緒に整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・昼食作り、夕食作り、時間になると、必ず台所に来る方、「何か手伝います」と申し出る方、そんな様子を見て、自分も何かできることを思われ自己表現が得意でない方も参加への意欲を示している。器用に平等に盛り付けをされる方、何よりも安全に配慮しながら、無理のないように、休憩時間を取り入れながら行っている。後片付けも自主的にされ「しんどくなったら変わってくださいっていいますからご心配なく」等、コミュニケーションも多くなることにより、食事時は楽しみな時間になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養管理については栄養士がサポートしている。お一人おひとりの状態や体調による個人差を鑑みながら毎回の食事を記録し、習慣、好み等も考慮して、必要な方には刻む等の工夫もして食べ易く、バランスもよい状態で食してもらえるように支援している。適切な運動量の確保による相互作用を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・嚥下時にむせ込みのある方等は、毎食後の口腔ケアにより口腔内の清潔を保持している。また、口腔ケア時に義歯の状態を見守り、必要に応じて受診につなげている。自分で歯磨きをされる方は、声かけ・見守りをする事で、磨き忘れがないように支援している。		

長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷(1Fたけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・尿意・便意の訴えがあればすぐにトイレに誘導しスムーズな排泄につなげている。訴えの無い方は、お一人おひとりのしぐさの観察や排泄パターンに応じたトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が行えるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・高齢化と共に自力排便の困難な方も増えて、かかりつけ医より緩下剤使用の方も多くなっている、そのお一人おひとりの状態をみながら、水分の摂取、繊維の多い食べ物の提供等の工夫をしている。また適度に身体を動かす等により便秘を予防している。緩下剤服用によりすっきりとした排便になる方もあり、その方に応じた便秘の予防と対応を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・時間や順番などのきまりはなく、毎日が入浴可能日になっている。入りたい時に入れるように、一回一回一人ひとりの気持ちを大切にしている。 ・排泄状況、体調への配慮をしながら、身体の清潔保持、心身のリフレッシュを大切にしている。入浴時は羞恥心への配慮をしながら利用者とのコミュニケーションにより、お互いの気持ちの交換を楽しむ時となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・季節により体調が異なる方、冬場は咳がしやすい方、日中どンドン食事のお手伝いをやって後で疲労してしまう方、日中の休息のリズムをとってもらう等の支援も大切にしている。 ・夜間歩行不安定な方は転倒防止のためにナースコールや、徘徊防止センサー等使用し、トイレ誘導、見守りの徹底により安眠につないでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・お一人おひとりの持病と服薬の目的、副作用等を理解してスタッフが管理を行っている。 ・短期に服用する風邪薬等は、改善等症状を見ながら、かかりつけ医の指示を確認し服薬。 ・投薬の間違い等がないように、処方箋管理表及び服薬管理表の徹底記入をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・編み物、習字、絵を描くことが大好きだった方、合唱をしていた方、主婦としての台所仕事、片付け等、日々の生活の中に取り入れている。歌が好きな方は歌ビデオに集中し、手拍子をたたきながら歌ったりして集中、充実した時間をすごしている。台所仕事は年齢を重ねても張り合いのある仕事となっている。 ・一人での外出が困難な方が多く、室内での生活が中心になりがちであるが、気候に応じて、近回りの散歩、ドライブ、ガーデンタイムやランチの時間等、外気に触れる喜びと共に気分の転換を図っている。		

長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷(1Fだけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・天候のよい日は毎日朝の散歩を希望、近回りの散歩を実施支援している。花のみずやり、近くのお店への買物、郵便局へ手紙の投函、その日その日の希望で戸外での活動も大切にしている。庭のテーブルでゆっくりとくつろぎながらお茶の時間も持つように努めている。 ・季節に応じて、近くの神社への花見(初詣、梅、桜、紅葉)、コスモス畑への散歩、ドライブでは四季折々の景色を楽しんでいる。 ・家族の協力もいただき、外出してお食事に行く方もおられる。 		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の個人管理は紛失等の恐れがあり、ご本人より保管をしておいてほしいとのことから、職員管理とし、必要に応じて個人が出費している。買い物時は、お金を手に持って頂ける方は自ら支払いをしてもらい、一人での支払いが無理な場合は職員が変わりに手伝い、常に収支を出納帳に記入している。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話を持ち、家族とよく電話で話されている方もおられる。電話で体調の不良を伝えたりすることは職員も確認しご家族とも確認している。ご家族や友人に年賀状、日常的にもはがきを書きたいと、はがきの購入、投函等見守っている。コミュニケーションをはかり、その方の習慣を大切にしている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1Fは玄関とつながっており、玄関内の棚には季節の花が生けられ、置かれたソファに腰をかけてゆったりとできたり、外来者に親しく接する機会も多くあり、自由な行き来は、家庭的な空気をも出し出している。 ・居間・兼食堂はスペース的には狭さを感じることもあるが、テーブルの配置を工夫したり等、共有空間に暖かさや居心地のよさを感じさせている。 ・大きな浴槽は、ゆったりと入浴を楽しむことができ、介助を通して、利用者と親しくコミュニケーションをとることのできる場となっている。 		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居間のテーブルの配置を変えたり、食事の時以外は、利用者が、その都度、自由に好きな席に座って好きなことをしたり、また何人かが集まってゲーム、合唱等したりしている。同じ空間にいながらもそれぞれがしたいことをしていても違和感がなく、穏やかで落ち着いた空間と、元気で明るい空間を皆さんが作り出しておられる。疲れた時等、自分の体調や気分も大切にされて、一人になりたいときは居室でゆっくりとされている。お一人お一人のこうした居場所を大切に頂くために、スタッフは常に見守りと関わりへの配慮をしている。 		

長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷(1Fたけ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・畳の上にふとんを敷いて就寝することを生活習慣にしてこられた方は、その習慣を大切にしている。家具等は、今まで使用してきたものや、家族と相談し、自分の好みの座椅子を使用したりしている。またお花を好きな方は、植木鉢等も置いたりそれぞれの好みと工夫を大切に生活の場を作り上げている。何よりも居室内の清潔が保てるように、掃除、衣類の整備等配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・もともと「会社の寮」の改修しての建物内部ではあるが、できる限り安全で自立した生活が送れるように工夫はされている。利用者も満足されているが、入り口における両手摺の設置、滑り止め等転倒防止、安全保持への配慮をその都度追加している。改築後の8年余の経過していることでの修繕、高齢化に伴いさらなる工夫も要請されてきている。 ・お一人おひとりの今持っている力…理解する力、精神的な力、趣味等の力、身体機能の力はわかる力につながっているので、それぞれの力を活かしていけるよう関わっている。利用者の中には「私は分からないから、あなたが覚えておいてくれれば、あなたに聞くことで安心だから」と、わからないことを知っている力は、スタッフとの気持ちの交流の中で、分かる力として大切にしている。ことばの理解はできなくても手続き記憶を大切に行為が結ばれる声かけで混乱しないようにこころがけている。		